

技能試験合格へ練習を

電業関係体 水沢工高などに電線寄贈

奥州

県電気工業業工業組合水沢支部（組合員26社）と県電業協会奥州支部（会員5社）は23日、奥州市の県立水沢工業高校と県立産業技術短期大学校水沢校に電線を寄贈した。両支部は第2種電気工事士技能試験の練習に役立ててもらおうと毎年行っており、両支部で支部長を務める千田新一さん（協栄電工社長）は「練習を積んで1人でも多くの工

事士が誕生してもらいたい」と話した。電線の寄贈は、組合員、会員各社が工事の際に出るケーブルや電線の端材を集



技能試験に向けて電線を寄贈した県電気工業業工業組合水沢支部の酒井青年部長（中央）と千田支部長（左）。右は水沢工高電気科の千葉さん

めてリサイクルし、2008年から行っている。同日は千田さんから関係者が両校を訪ね、電線を寄贈した。このうち水沢工高には1・6ミと2・0ミのVVVFケーブル合わせて1000ヶ（約11万円相当）を贈った。同校では電気、設備システム両科の1〜3年生22人が7月に行われる同美技試験に臨むという。同組合水沢支部の酒井清和青年部長が電気科1年の千葉卓哉さんに電線を手渡した。千葉さんは「練習で使うための電線を頂けてありがたい。技能試験に向け

て十分に練習を積み、試験に臨みたい」と感謝していた。同校では朝学習などで在学中の資格取得に向けて取り組んでいる。同技能試験に向けた対策では、電気配線の課題を繰り返し練習することが重要で、大量の電気配線資材を使うという。千田さんは「皆さんの合格を祈っている」と思いを語った。同試験は上期と下期の年2回行われており、22年度上期試験は5月29日の筆記試験を経て、7月24日に技能試験が行われる。